

天国への手紙

R N きんた

親戚のお兄ちゃん、ケン君へ

ケン君、なんでこんなに早く逝っちゃったの。

全然ありえない！全然ありえない！心の中で

この言葉がリピートして回っています。

あまりにも、あっけなく逝ってしまったって喪失感の極みです。

誰もが寿命を全うして長生きできるわけではないけど、自分の身近な人がこんなに早く亡くなるなんて。

ケン君は僕より7つ年上で、いろんな事を教えてくれました。

ケン君の家に泊まりに行きお風呂も一緒に入ったよね。

テレビゲームも教えてくれて、キャッチボールも

一緒にやったよね。

本当に楽しい時間を過ごすことが出来ました。

好奇心旺盛な時代、目を輝かせて遊ぶことが出来たと

振りかって実感しています。

今はただ、キラキラとした思い出だけが蘇ってきます。

ケン君が生きていたら、これからどんな人生を歩んでいったのだろうか？

頭も良く優しい人柄で、誰からも愛されてるキャラクターだからきつとBIGな事を成し遂げ、社会に貢献したのだろうと思います。

僕も出来れば、そんなケン君のような、誰もが憧れる人間になりたいです。

ケン君、時間のある時でいいので、たまに僕を見守っていて下さい。

僕も一生懸命頑張るので、間違った道に進みそうなら一声掛けて下さい。

何となくケン君が進みそうな道を思え浮かべつつ歩んで行きます。

そして、そちらでは、笑顔いっぱい自由に発散して下さいね。いつか、僕もそちらに行った時には、一緒にまた遊びましょう。

どうか、これからも宜しくお願いします。
ありがとうございます。

大好きで尊敬しているケン君へ

きんた

僕の歌は君の歌／エルトンジョン